

第20代高校生平和大使 国連欧州本部(ジュネーブ)、関連機関、NGO等を訪問

全国から選出された22人の高校生平和大使(岩手県2人:釜石高、盛岡三高)は、8月20日から25日まで、スイス・ジュネーブを中心に核兵器の廃絶と平和な世界の実現を訴える活動にとりくみました。

民間交流

UNI(情報系労働組合の世界組織)、YWCA(女性の社会参画を進め、人権・健康・環境・平和な世界を実現する国際NGO)を訪問し意見交換しました。「日本の憲法9条を支持する。核兵器禁止条約を支持する。」とのメッセージが伝えられました。

日本政府代表部

意見交換で大使は、軍縮会議のスピーチをさせないことと、核兵器禁止条約の採択と高校生平和大使との関連を指摘する報道は違うとし、「軍縮会議は政府間交渉の場で、政府代表以外発言が認められていない。2014年から3年間は、例外だった。」「17年は、一部の国から指摘があったのでルールを尊重したい。みなさんの意見が伝わる場を各国代表を呼んで設けた。これが国際社会の現実である。」と述べました。

高校生からは、「核兵器のない世界を呼びかけることをどのように思うか。」「条約への不参加は溝を深めると思う、日本が先頭に立つべき。」「オランダの対応についてどう思うか。」「核兵器禁止条約の交渉に参加しなかった理由はなにか。」「核の平和利用は、原発事故を考えると難しいと思うがどうか。」「後世に日本が戦争をどのように伝えていくのか。」等を質問し、活発な意見交換が行われました。



国連欧州本部軍縮会議

軍縮会議場を訪れ傍聴席で会議を傍聴し、40分後に退席しました。2014年から日本政府代表団として行なわれていた核兵器の廃絶を求める高校生平和大使のスピーチは、政府・外務省の意向で見送られました。日本政府代表部は、各国政府代表を招いたレセプションを開催し、高校生平和大使22名と各国代表約60名との交流の場を設けました。

国連軍縮部

国連軍縮部を訪問し過去最多の21万4300筆の署名を手交し、核兵器の廃絶と平和な世界の実現を求めるスピーチを全員で行いました。英語による活発な意見交換の中で軍縮部長は、「平和の実現のために努力を継続する」「多くの国との信頼、目標の共有が難しい」「高校生平和大使のアクションや被爆者の証言が大切」「小さい頃か

